

日本分子生物学会における Poster Award 2025 を受賞して

多様物性研究部門 林研究室 博士後期課程1年 高松 宣道

この度、2025年12月にパシフィコ横浜で開催された第48回日本分子生物学会にてMBSJ Poster Award 2025を受賞しました。修士課程2年間の研究が評価されたことを大変嬉しく思うとともに、大いに研究を支えてくださった、指導教員、共同研究者の皆様ならびに発表の場で多くのご意見をくださった皆様に心より感謝申し上げます。

受賞対象となった研究は「DNA オリガミ製ナノスプリングを用いたモータータンパク質 KIF1A の力計測」です。本研究では、DNA を材料として作製した世界最小のコイル状バネ「ナノスプリング」を用いて、モータータンパク質 KIF1A が発生する力を1分子レベルで計測する実験系を構築し、KIF1A の力発生特性を定量的に調べました。研究内容の詳細については、2026年度の第66巻第1号の物性研だよりでも取り上げていただいているため、そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

さて、今回この受賞記事の執筆を依頼されたとき、実は少し悩みました。というのも、発表した研究内容自体は、以前物性研だよりで紹介していただいた内容と大きく重なるからです。同じ話をもう一度書くのもどうだろうか、いっそ辞退した方がよいのではないかと、とも考えました。しかしせっかくの機会なので、ここでは研究内容そのものではなく、今回のポスター作成時に個人的にかなりこだわった「デザイン」、特に「色」について書いてみたいと思います。研究内容の陰に隠れてしまった細かなこだわりを、ここで少し成仏させていただくことにします。

私は、プレゼン資料やポスターを作るとき、どうしても何かしらのテーマや仕掛けを入れたくなってしまう癖があります。今回のポスターでは、ふと思いついて、私の大好きな作品である『エヴァンゲリオン新劇場版』の配色を参考にしてみることにしました。新劇場版は『序』『破』『Q』『シン』の4作品からなり、それぞれの作品には、赤、オレンジ、水色、白といった印象的なテーマカラーがあります。そこでポスター内の各セクションにも、それらの色を順番に対応させるように配色しました(図1)。

一般的に、学会ポスターでは一つの有彩色を基調色として使い、全体をまとめることが多いように思います。その方が統一感を出しやすく、情報も整理しやすいからです。

一方で、今回はあえて複数の色を使いました。複数色を使うと、ともすれば紙面が煩雑になり、どこを見ればよいのか分かりにくくなってしまいます。しかし、実際に完成したポスターを見てみると、個人的にはかなり見やすく、かつ会場でも目に留まりやすいものになったのではないかと感じました。もちろん、これは自画自賛ですが。

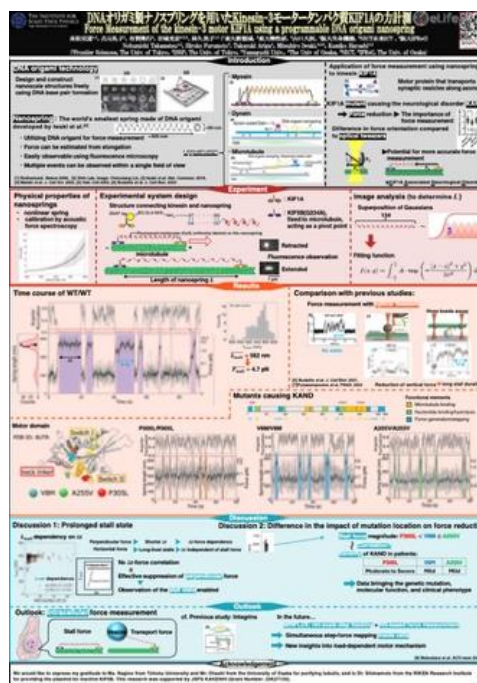


図1. 受賞対象となったポスター。『エヴァンゲリオン新劇場版』4作品のテーマカラーを意識した。

そこで、この配色に何かしらの裏付けがあるのだろうかと思い、少し色彩について調べてみました。色を体系的に整理する方法の一つに、PCCS 色相環があります。PCCS は日本色研配色体系とも呼ばれ、色相とトーンを組み合わせる色を整理する体系です。色相とは赤、黄、緑、青、紫といった色みの違いを表すもので、PCCS ではこれを24の色相に分け、円環状に配置しています(図2)。この色相環を見ると、近い位置にある色はまとまりやすく、反対側にある色は対比が強くなることが分かります。したがって、色相環上で色の位置関係を見ることで、色同士の調和や対比を考えることができます。

今後も、研究内容そのものを深めることはもちろん、それをどのように見せ、どのように伝えるかについても工夫しながら、研究活動に取り組んでいきたいと思っています。